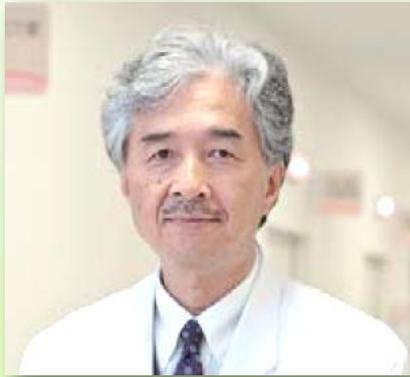


新年のご挨拶



阪南市民病院

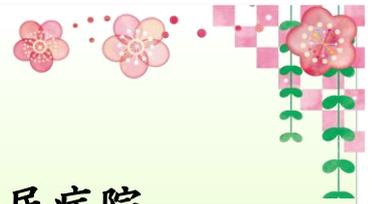
院長 藤本 尚

明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルスが出現し、早3年を経過し、現在も以前と変わらず感染症対応に追われている日々です。ワクチン接種も多い方で5回目となり、発熱外来も今回はインフルエンザにも留意した対応となり、皆様方には大変さが色々な形で続く1年であったかと思えます。当病院も、外来診療や入院機能に制限を加えるだけでなく、市民病院として機能強化のためポストコロナを見据え図るべく整形外科手術にロボットを投入し、役割を一新しつつ、さらに努力を重ねた1年であったかと思えます。新年に当たり、継続性のあり、かつ実行可能な感染症対策を当然のこととして行い、さらなる診療機能の向上に努め、市民の方々に今まで以上に信頼される病院を目指していく予定です。

今後とも、ご理解とご支援のほど、よろしく願い申し上げます。





ご挨拶

阪南市民病院

看護部長 中嶋 和代

新年あけましておめでとうございます。
昨年中は、地域の皆さまより温かいご支援やご理解を賜り厚く御礼申し上げます。
当院では、新型コロナウイルス感染症対応として、面会制限を2年以上も継続しており、患者さまとご家族の方の不安や苦悩を考えますと大変心苦しく思います。また、地域の関係機関の皆さまにも、引き続きご不便をおかけすることになりますが、このような状況だからこそ、今まで以上に患者さま・ご家族の方の気持ちに寄り添う医療・看護を実践していきたいと考えております。さらに医療・介護・福祉のコミュニケーションを深め、地域の皆さまからの期待に応えられるよう気を引き締めて取り組んでまいります。今年もどうぞよろしく願いいたします。
皆さまにとって今年が良い年になりますよう心より祈念いたします。

ご挨拶

阪南市民病院

管理部長 薫 伸行



新年明けましておめでとうございます。
旧年中はひとかたならぬご愛顧を賜り、心からお礼申し上げます。
昨年、一昨年と流行の波が繰り返された新型コロナウイルスの感染状況は現下完全収束とは言えない状況ではありますが、世の中がウィズコロナからアフターコロナへと移行していく兆しがみられてきています。新型コロナウイルス感染症の事象で明らかになった課題や問題点をあらためて整理し、次の流行や新たな感染症リスクに対応できる強い医療機関としての体制を築き、地域における医療・介護・福祉の関係各機関との緊密な連携をはかり包括的で継続的な医療提供ができるよう皆様方のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。
本年が皆様にとって実り多き素晴らしい一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

